

Stride Ahead
100th

2021年3月期 第3四半期 決算概要

2021年2月4日

テルモ株式会社
Chief Accounting and Financial Officer
武藤 直樹



TERUMO

CAFOの武藤でございます。
2021年3月期 第3四半期決算の概要について説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

四半期として売上・調整後営業利益ともに過去最高

(億円)

	19年度Q3累計	20年度Q3累計	増減率	為替除く増減率
売上収益	4,701	4,486	-5%	-3%
売上総利益	2,586 (55.0%)	2,413 (53.8%)	-7%	-5%
一般管理費	1,368 (29.1%)	1,307 (29.1%)	-4%	-3%
研究開発費	370 (7.9%)	359 (8.0%)	-3%	-2%
その他収益費用	15	6	-	-
営業利益	863 (18.3%)	753 (16.8%)	-13%	-10%
調整後営業利益	984 (20.9%)	885 (19.7%)	-10%	-8%
税引前利益	855 (18.2%)	749 (16.7%)	-12%	
当期利益	669 (14.2%)	586 (13.1%)	-12%	
期中平均レート	USD 109円	106円		
	EUR 121円	122円		

■ 売上収益：心臓血管の需要が着実に回復。他のカンパニーへの新型コロナ影響は依然として軽微

■ 調整後営業利益：売上減少による減益。費用はメリハリをつけたコントロールを継続

©TERUMO CORPORATION

3 / 22

TERUMO

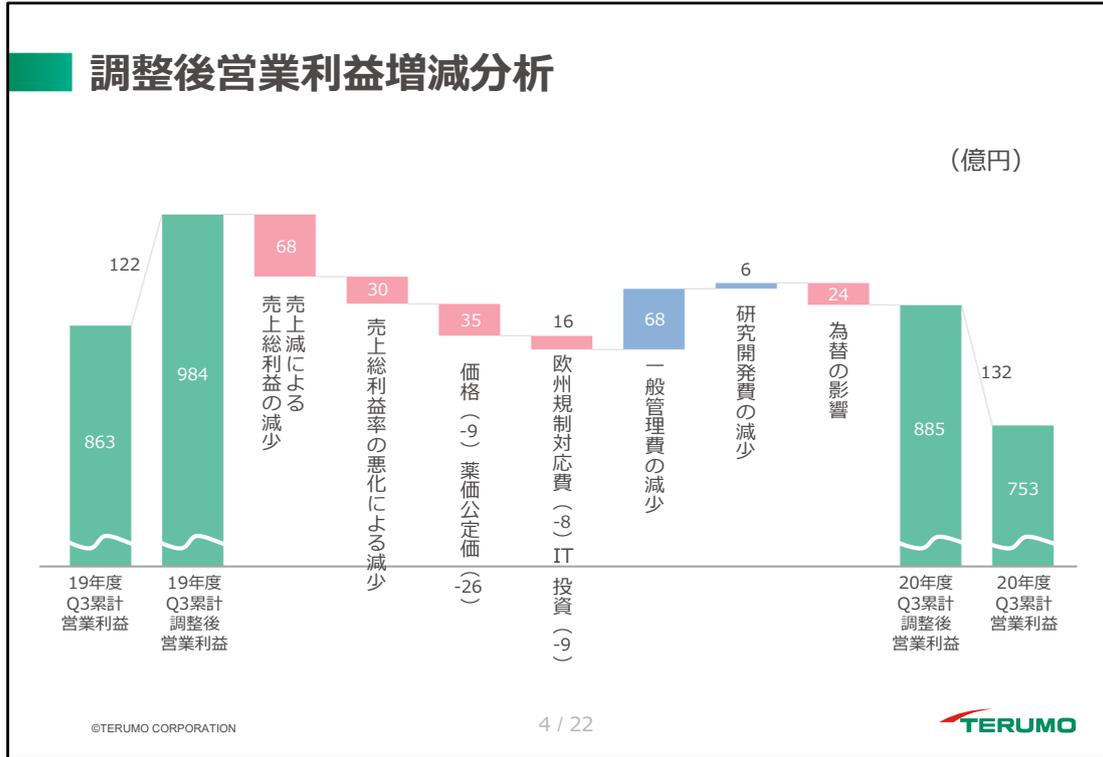
初めに全体総括です。

売上収益は、心臓血管カンパニーにおいて、Q1に新型コロナの影響を大きく受けましたが、Q2、そしてQ3と着実な回復が見られました。ホスピタルや血液・細胞テクノロジーカンパニーでは、新型コロナの対応として引き続き引き合いの強い製品もある中で、ネガティブな影響は軽微に留まり、総体で5%減、為替を除くベースでは3%の減収と前年度のレベルに近づきました。

調整後営業利益は、心臓血管カンパニーの減収影響が残る中、費用について、活動制限による自然減少に加え、引き続き案件ごとに丁寧な評価をすることで支出の抑制を図りました。その結果、為替を除くベースで8%減、営業利益では10%の減益と、Q3に入り顕著な回復を示すことができました。

当期利益では前年同期比で12%の減益と、こちらもQ3において回復が加速しました。Q3では、全てのカンパニーにおいて、前年度比における製品ミックスが良い方向に寄与したことで売上総利益が増加し、利益の回復を加速させました。

その結果、Q3単体は、四半期として売上、調整後営業利益、営業利益が過去最高となりました。



前年同期比での調整後営業利益の増減分析です。

「売上減による売上総利益の減少」は、Q3の三ヶ月が全社でプラス伸長となったため、上期時点の減少幅から小さくなり、68億円のマイナス要因となりました。

「売上総利益率の悪化による減少」は、心臓血管カンパニーの回復によるカンパニー間のミックス改善に加え、各カンパニーにおける製品ミックスも改善されたことにより、上期よりも減少幅が小さくなり30億円のマイナス要因となりました。

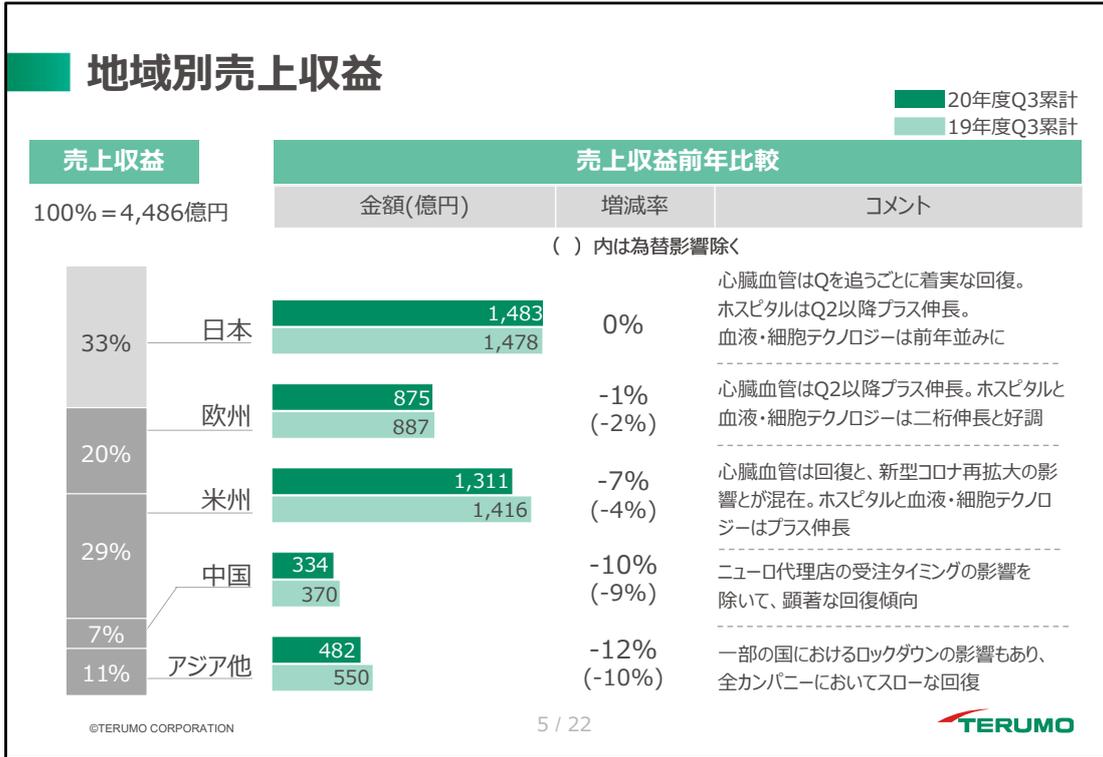
「価格下落」は、心臓血管カンパニーの回復が進んだことで、上期までの増加ペースよりわずかに上がり、9億円のマイナス要因となりました。一方、「薬価公定価」は、Q3に入り昨年10月の消費増税にともなう改定の影響が一巡したことで、上期から大きく増えず26億円のマイナス要因となっています。

「欧州規制対応費」、そして「IT投資」は、プロセスが順調に進み、8億円そして9億円と、それぞれ前年同期比で費用が増加しました。

「一般管理費の減少」については、依然病院へのアクセス制限が厳しく、販促費や旅費の縮小が続いていることに加え、不要不急の費用を抑える等メリハリのあるコントロールを行なった結果、前年同期比68億円のプラス要因となりました。

「研究開発費」においては、中長期に資する投資として原則緩めず行なっていますが、これにもメリハリのある管理を実施し、前年同期比6億円のプラス要因となりました。

「為替の影響」は、ユーロ等の通貨が円安に推移したことで、上期時点と比較し影響が小さくなり、前年同期比で24億円のマイナス要因となりました。



地域別売上収益です。

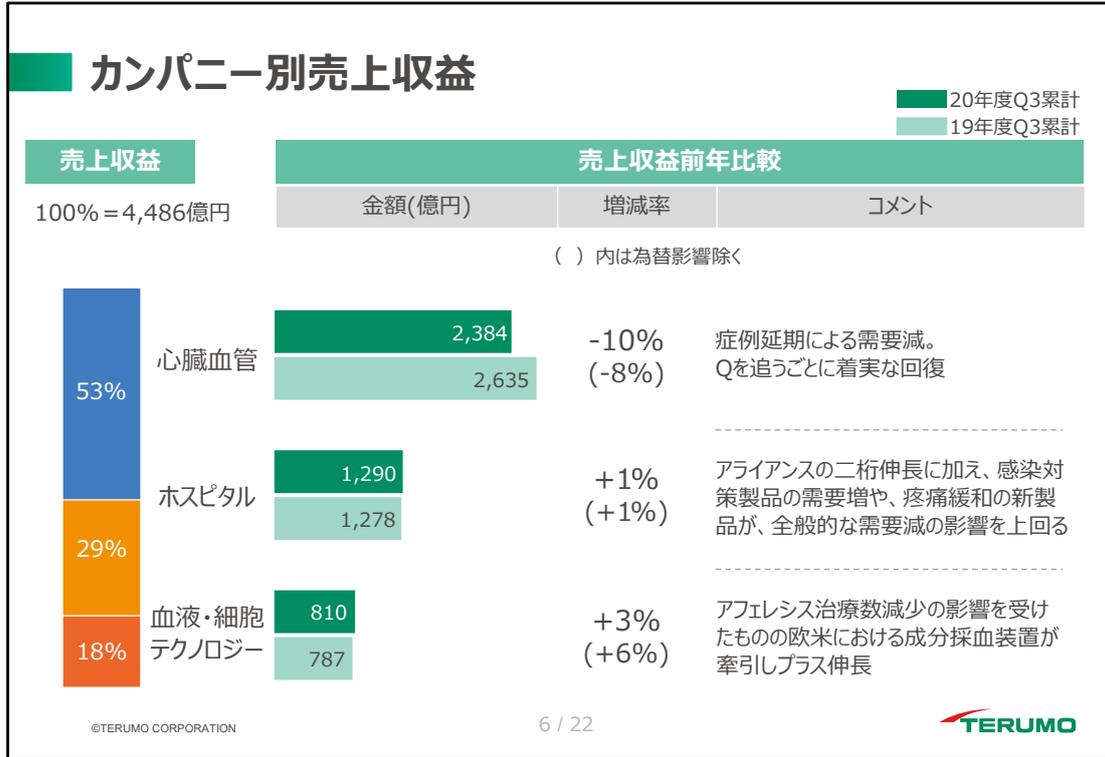
日本では、心臓血管カンパニーがQを追うごとに着実に回復しています。ホスピタルカンパニーは新型コロナ感染対策や予防に対応した製品の供給に注力、その結果、Q2以降プラス伸長を続けており、前年並みまで回復した血液・細胞テクノロジーカンパニーとともに堅調です。地域全体としても前年レベルまで戻りました。

欧州では、心臓血管カンパニーがQ2以降プラス伸長を継続、他の二つのカンパニーも二桁伸長しており、前年レベルに近づいてきました。

米州は、心臓血管カンパニーにおいて着実な回復を示しているものの、Q3後半に新型コロナ再拡大の影響が一部見られました。

中国は、ニューロにおける代理店からの受注タイミングの影響が徐々に軽減されています。Q3単体で見ると一桁半ばのプラス伸長と、全般に顕著な回復を示しています。

アジア他は、一部の国におけるロックダウンの影響を受けており、いずれのカンパニーにおいても回復がスローな状況です。



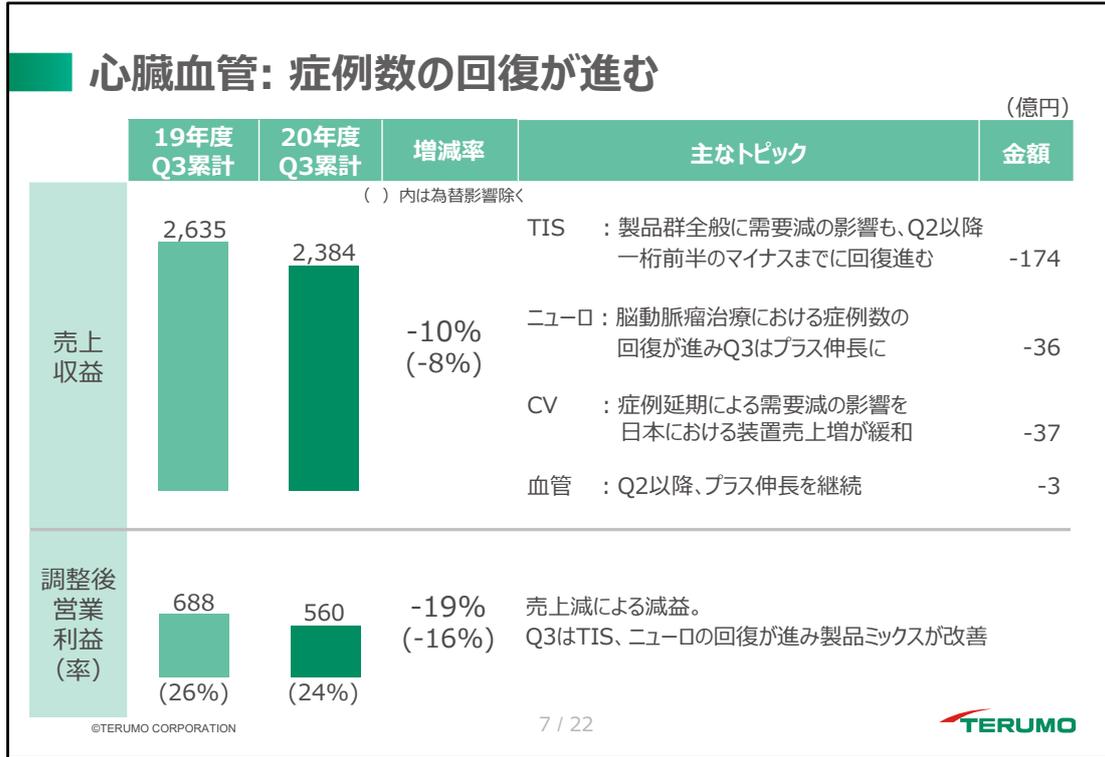
カンパニー別売上収益です。

心臓血管カンパニーは、累計では症例延期の影響が残りますが、Qを追うごとに着実な回復を示しており、Q3の三ヶ月だけを見ますと2%の減少と、前年レベルに近づいてきました。

ホスピタルカンパニーは、全般に需要減の影響が依然あるものの、アライアンスの二桁伸長や、疼痛緩和における新製品効果に加え、感染対策製品の需要増がネガティブ影響を上回り、プラス伸長へと転じました。

血液・細胞テクノロジーカンパニーは、回復期血漿の需要増等もあり、引き続き成分採血装置が全体を牽引しプラス伸長を維持しています。

次のスライドより、カンパニー別に詳しくお話しいたします。



心臓血管カンパニーです。

売上収益は、10%の減収と着実な回復が見られました。

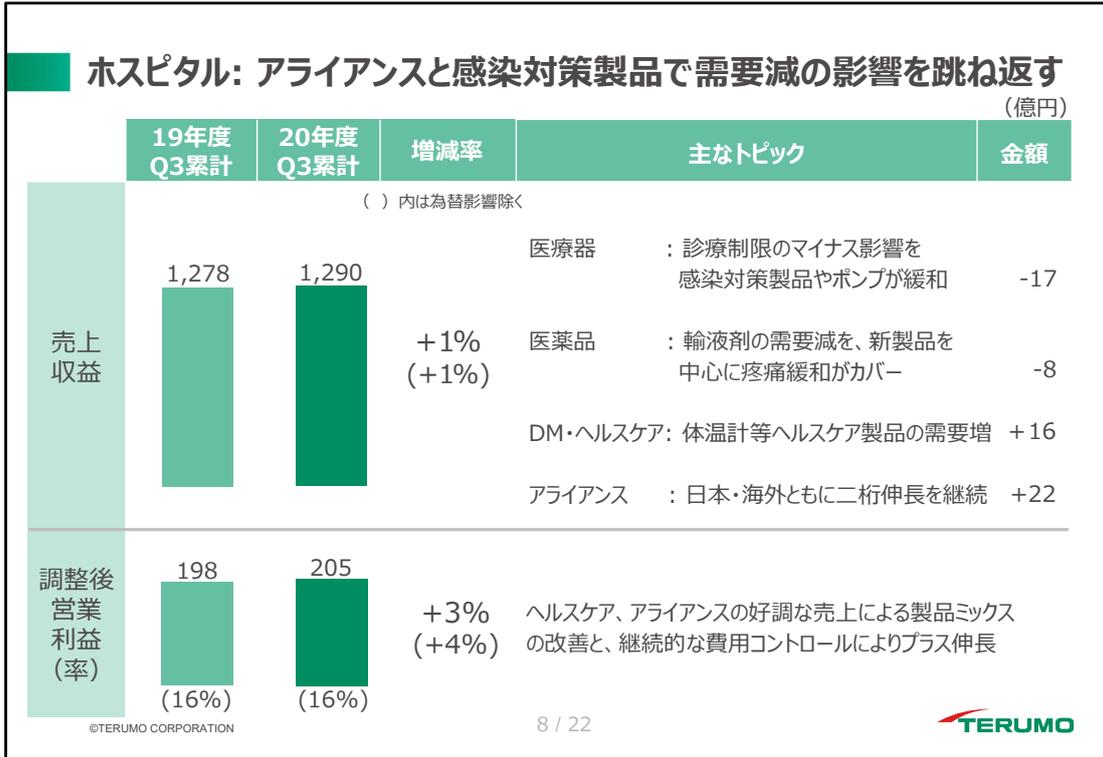
TISは、Q3の後半に新型コロナ再拡大の影響が一部見られましたが、症例数の回復にともない着実な戻りを見せています。

ニューロはQ3からプラス伸長に転じており、本来の強い基調に戻る兆しが見えています。

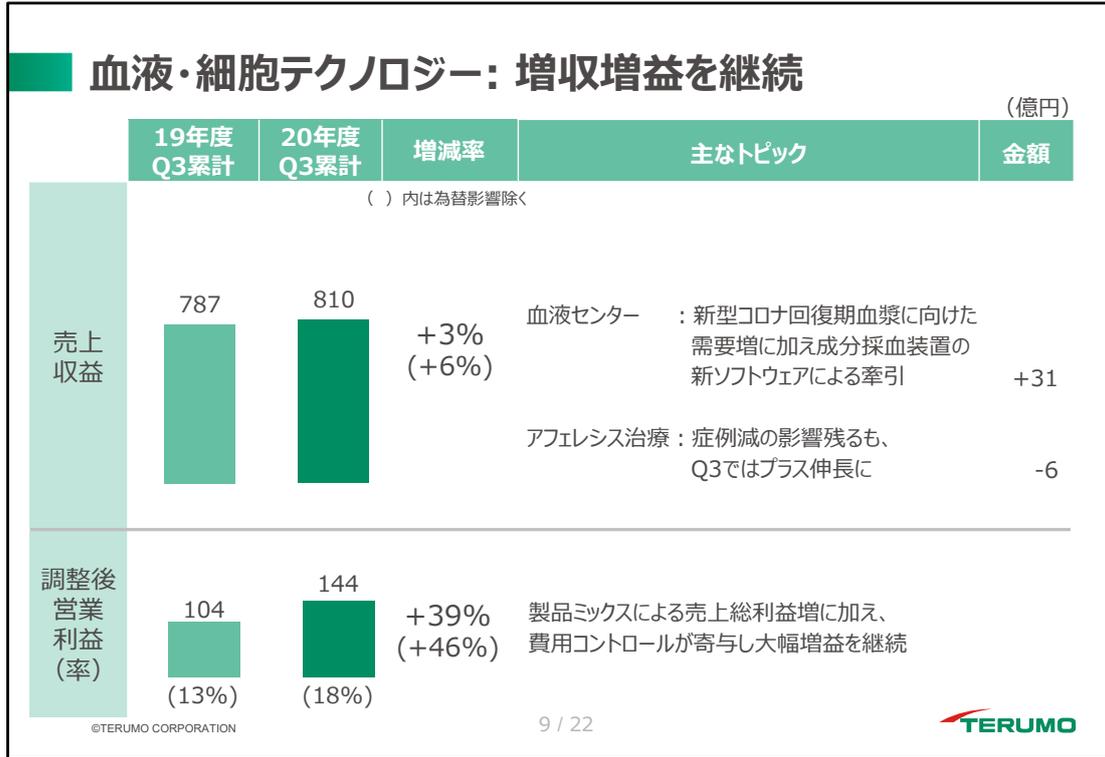
CVは、症例延期の影響が依然残りますが、日本におけるECMO製品の売上増がそれを緩和しています。

血管は、Q2以降プラス伸長を継続しており、堅調です。

利益においては、売上収益の減少により減益ではあるものの、収益性の高いTISとニューロの回復が進んだことにより、製品ミックスが改善され、Q3の三ヶ月において大幅に利益率が改善しています。



ホスピタルカンパニーです。
 売上収益は、受診抑制や診療制限による需要減少の影響が残るものの、疼痛緩和製品やアライアンスの二桁伸長に加えて、体温計や消毒剤等の感染対策製品の需要増が押し返し、全体としてプラス伸長となりました。
 利益においては継続的な費用コントロールに加え、収益性の高いヘルスケア製品とアライアンスが伸長していることで製品ミックスが改善され、利益率の向上とともに増益となりました。



血液・細胞テクノロジーカンパニーです。

売上収益は、血液センター向けの事業では、全世界的な献血者数の減少で厳しい環境ではありますが、新型コロナの治療に向けた回復期血漿の需要が、欧米中心に高いことに加え、製剤効率を高める新ソフトウェアの導入も貢献し、成分採血装置の売上増が全体を牽引しています。

利益は、一般管理費を中心とした費用コントロールの継続に加え、収益性の高い成分採血の比率が高まったことによるミックス改善が進み、当カンパニーにおいても利益率が向上し、大幅な増益となりました。

第4四半期の考え方

- Q4は欧米中心に新型コロナ再拡大による需要の減少が見込まれる
 - 欧米における症例延期の再開等、足元の環境は業績に対しネガティブ
 - ワクチン接種の開始や新型コロナへの対応力向上等プラス要素もあり、2020年4、5月ほどの悪化は想定しない
- Q1にBCP目的で積み上げた在庫を適正水準へ戻すため、生産稼働レベルの調整を開始
- 一般管理費は一定の抑制を効かせつつ、業績を見極めながら適切に投下
- 研究開発費は中長期成長の観点から、優先順位をつけてコントロール

第4四半期の考え方についてお話しします。

先程、実績のところでも触れましたが、心臓血管カンパニーの一部の事業において、Q3の後半、12月頃から欧米を中心に新型コロナ再拡大の影響が再び見えてきています。欧州各国では規制が強化され、米国でも100以上の病院で待機症例の延期を行なっているという情報もございます。

足元1月の売上状況を見ると、Q3実績の月平均よりも1割ほど弱いという印象です。とはいえ、ワクチン接種も始まり、医療現場もコロナ禍における対応力は確実に上がっていることから、昨年4月、5月のような需要減、その際に受けた売上へのマイナス影響まではいかないと考えています。

利益に関しては、第1波の時にBCP目的で積み上げた在庫を徐々に適正水準までに戻すべく、生産稼働レベルの調整を開始しますので、売上総利益への重石となると考えています。

一般管理費と研究開発費は、これまで同様のコントロールを行なっていきます。

全体感としては、製品ミックス改善等の好条件が揃ったQ3と比べてしまうと、Q4は少し弱含みの見通しを立てていますが、Q2の売上・利益レベルに近づけていきたいと思っています。

業績予想の修正

(億円)

	従来 予想	今回 修正予想	修正額
売上収益	6,000	6,000	±0
営業利益 (率)	900 (15.0%)	975 (16.3%)	+75
調整後営業利益 (率)	1,080 (18.0%)	1,150 (19.2%)	+70
当期利益	680	750	+70

予想為替レート USD 通期: 106円 Q4: 104円、通期: 106円
 EUR 通期: 121円 Q4: 126円、通期: 123円

- Q3に想定を上振れした分を織り込んだ修正
- 配当に関し、5月決算時に発表した予想から変更なし

©TERUMO CORPORATION

11 / 22



これまで説明したQ3実績、そしてQ4の考え方を踏まえて、業績予想の上方修正を行ないます。

売上収益は、一部見え始めている新型コロナ再拡大の影響や市場環境の不透明さを加味し、据え置きといたしました。

利益は、一つ前のスライドでお話したように、Q4はQ3のように明るい状況ではありませんが、それでもQ3の利益上振れ分は顕著であり、その分を織り込み、営業利益を75億円、調整後営業利益を70億円、そして当期利益を70億円、それぞれ上方修正いたします。

年度末まで二ヶ月を切るタイミングですが、一般管理費について、Q4では、海外において営業人員のワクチン接種が始まった中、活動レベルが上がり、また臨床試験に関わる費用や販売拡大ツール等の費用も想定し、Q3の一般管理費レベルより数%増えと見込んでいます。しかしながら、新型コロナ再拡大次第では、Q3レベルの支出に留まる可能性もあると考えています。

配当については、依然新型コロナ再拡大の不透明感やリスクが残ることから、5月発表の予想を据え置いています。

主なトピックス

会社

25年連続でグッドデザイン賞を受賞



心臓血管

袋状脳動脈瘤塞栓デバイス「Woven EndoBridgeデバイス」を日本で発売



袋状脳動脈瘤塞栓デバイス
「Woven EndoBridgeデバイス」

ホスピタル

テルモ山口で開発製造受託（CDMO）の生産能力を拡充

仏Diabeloop社とインスリン自動投与制御システムの共同開発契約を締結

パッチ式インスリンポンプ「メディセーフウィズ」がCEマーク認証を取得



薬剤充填用注射器
「PLAJEX」



インスリン自動投与制御システム
（イメージ）

**血液・細胞
テクノロジー**

自家細胞分離・調製システム「スマートブレップ」を日本で発売

アフリカにおいて安全な血液製剤アクセスのための官民連携を開始



パッチ式インスリンポンプ
「メディセーフウィズ」



自家細胞分離・調製システム
「スマートブレップ」

©TERUMO CORPORATION

12 / 22



COBA
COALITION OF BLOOD FOR AFRICA



Q3におけるトピックスです。
 全社では、複数の製品でグッドデザイン賞を頂き、25年連続の受賞となりました。
 カンパニーのトピックスをみますと、ニューロのWoven EndoBridgeデバイスやDM関連
 製品等、戦略的製品の進捗が確認できます。アライアンスについては、上期決算発
 表時に佐藤よりお話をしましたが、今後の開発パイプラインの厚みが増す中、テルモ山
 口におけるCDMOの生産能力を着実に拡充しています。

20年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ	
心臓	ステーラブルシース	日		血管	腹部ステントグラフト	米	済み	
	PTCAバルーン(Essen社製)	中			次期シリンジポンプ	日	済み	
イメージング	IVUSカテーテル	日	済み	医療器	次期針刺し防止機構付留置針	日		
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧			Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜	済み	
	末梢血管塞栓用プラグ	米		医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日	済み	
脳	血流改変ステント	日米	済み	DM・ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日	21年度に延期	
	バルーン付きガイドカテーテル	欧				血糖測定システム	日	済み
	頸動脈用ステント	日	済み			次期体温計	日	済み
	袋状塞栓デバイス(Woven EndoBridgeデバイス)	日	済み					
カーディオバスキュラー	次世代人工肺	日	済み					
	人工心肺装置(再出荷)	日	済み					
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル	済み					

©TERUMO CORPORATION

13 / 22

TERUMO

最後のスライドになります。

今年度のパイプライン製品です。詳細は割愛しますが、概ね予定通りに新製品のローンチが進んでおります。

新型コロナの再拡大等、依然予断を許さない状況ではありますが、経営努力を緩めることなく、今年度ガイダンスの達成、また持続的な成長への回帰に向けて邁進してまいります。

皆様、ご清聴ありがとうございました。

参考資料

20年度Q3累計 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	366 (-4%)	2,018 (-9%)	599 (-7%)	916 (-8%)	268 (-12%)	235 (-12%)	2,384 (-8%)
うち TIS+ニューロ	263 (-8%)	1,665 (-9%)	488 (-7%)	736 (-7%)	247 (-14%)	194 (-12%)	1,929 (-9%)
ホスピタル	1,026 (+2%)	264 (-1%)	73 (+10%)	64 (+13%)	17 (-7%)	110 (-12%)	1,290 (+1%)
血液・細胞 テクノロジー	90 (-1%)	721 (+6%)	204 (+12%)	331 (+7%)	49 (+17%)	136 (-5%)	810 (+6%)
合計	1,483 (+0%)	3,003 (-5%)	875 (-2%)	1,311 (-4%)	334 (-9%)	482 (-10%)	4,486 (-3%)

() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	19年度 Q3累計	20年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	666	687	+21	+3%	+5%
販促費	146	86	-60	-41%	-41%
物流費	103	106	+3	+3%	+4%
償却費	139	142	+3	+2%	+4%
その他	314	285	-29	-9%	-8%
一般管理費計	1,368 (29.1%)	1,307 (29.1%)	-62	-4%	-3%
研究開発費	370 (7.9%)	359 (8.0%)	-11	-3%	-2%
販管費合計	1,738 (37.0%)	1,665 (37.1%)	-73	-4%	-3%

四半期の動き

(億円)

	19年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	20年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上収益	1,629	1,588	1,313	1,520	1,653
売上総利益	872 (53.5%)	853 (53.7%)	689 (52.5%)	816 (53.7%)	908 (54.9%)
一般管理費	472 (29.0%)	477 (30.1%)	401 (30.5%)	458 (30.2%)	447 (27.1%)
研究開発費	127 (7.8%)	136 (8.6%)	112 (8.5%)	119 (7.8%)	128 (7.7%)
その他収益費用	-2	4	5	-1	2
営業利益	271 (16.6%)	244 (15.3%)	181 (13.8%)	238 (15.6%)	334 (20.2%)
調整後営業利益	314 (19.3%)	266 (16.7%)	217 (16.5%)	296 (19.5%)	372 (22.5%)

四半期	USD	109円	109円	108円	106円	105円
平均レート	EUR	120円	120円	119円	124円	125円

©TERUMO CORPORATION

17 / 22

 TERUMO

調整後営業利益: 調整額

(億円)

	19年度Q3累計	20年度Q3累計
営業利益	863	753
調整① 買収無形資産の償却費	+119	+108
調整② 一時的な損益	+3	(※) +24
調整後営業利益	984	885

※ 調整項目

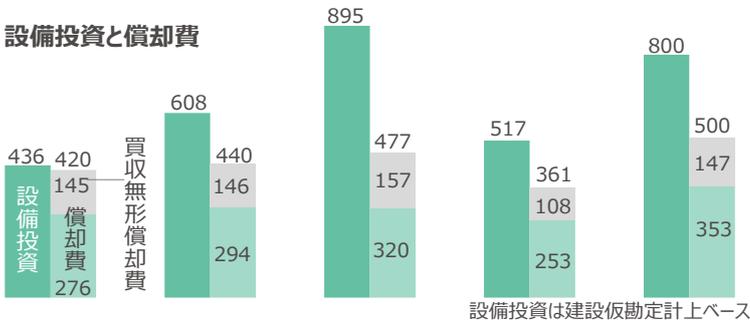
- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※)20年度Q3累計 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編費用	+4
その他	+20

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

設備投資と償却費



19年度・20年度実績・予想にはリース償却 (IFRS16)含まず

20年度は、増産設備、生産スペース、R&D投資、IT投資を継続

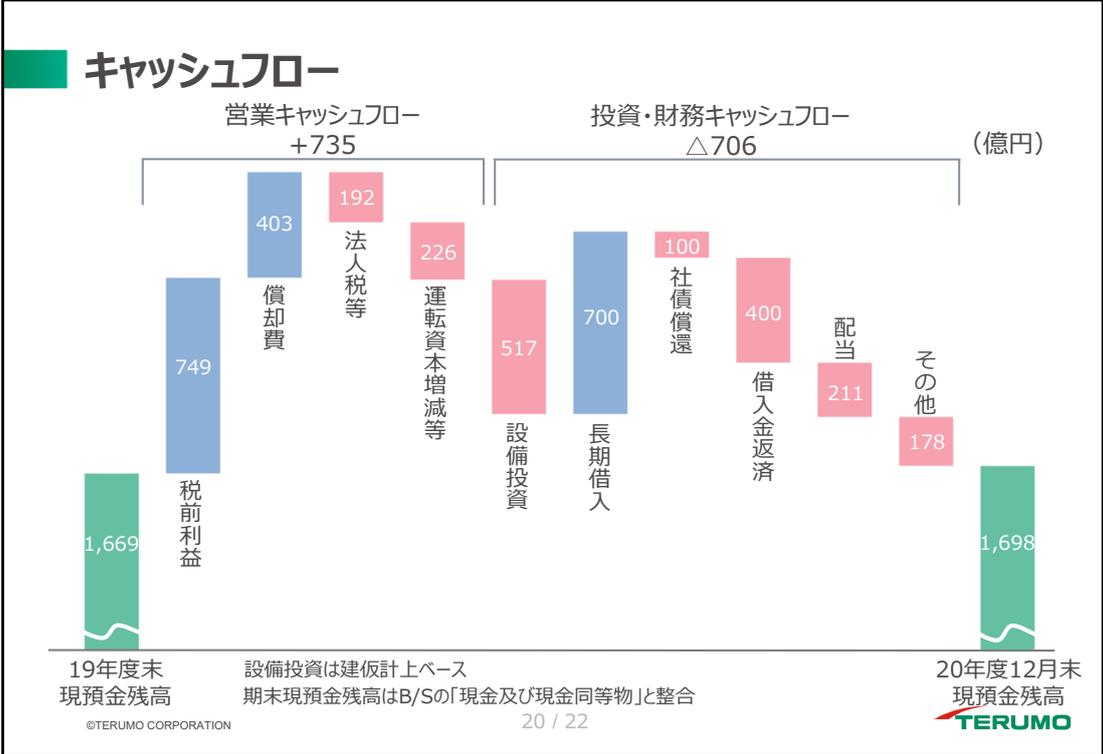
研究開発費



主にカテーテル、ニューロ、血液・細胞テクノロジーの開発活動を促進

開発費の資産化は設備投資に含む

18年度 : 24億円
 19年度 : 48億円
 20年度Q3累計 : 43億円
 20年度予想 : 54億円



為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

転換社債の状況

社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
計	1,000				約52百万株

転換状況 (2021年1月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	490億円 (98.0%)	25百万株 (3.4%)
合計	990億円 (99.0%)	51百万株 (6.8%)

転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況：4百万株(2021年1月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.5%)

©TERUMO CORPORATION

22 / 22





Stride Ahead
100th